

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2016 年 6 月 1 日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第 18 号

多文化の春まつりを終えて



私たちの心を春に導く桜の花も去り、新しい年度の始まった晴れの日。4ヶ月前から企画・準備を始めていた実行委員のメンバーが早朝から集合し、慌ただしく作業を開始しました。

この「東九条春まつり」は今年で5回目。参加者も関わる人の数

も年ごとに増え、主催者筋（えっ、どんな筋？）の発表では何と2,000名の参加者という賑やかさ。毎年苦勞していたボランティアの方々も、今年は大勢の方が来て下さいました。

「多文化」という言葉がいつ頃から言われ始めたのかはわかりませんが、私たちが中学生の頃に教科書で学んだのは、メソポタミア文明、エジプト文明、インダス文明、黄河文明の世界4大文明。ある学者たちによっては6大文明という分類もあるそうですが、同じ人間の生活でありながら、世界の地域によってはお互いに全く違う文化が育っていることが解ります。

「東九条と世界？そんな大げさな！」「しかも、文明と文化では意味が違いますよ？」とお叱りを受けるかも知れませんが、今やこの小さな東九条の街には世界から、また、“沖縄から北海道までのたくさんの人が住まいの地として暮らしている”そのことが、この春まつりを通してお互いに知ることになって来たのです。それぞれの国のお祝いごとが違い、お祭りが違い、食べ物が違い、歌が違い、衣装も違い……、それどころか、皮膚の色も違い、宗教も違い、意思を通わせる方法として最も大切な言葉が違うことも皆さんご存知です。高齢者になったとか、身体が不自由だとか、よそ者はどうだとか、こどもは黙っているとか、もうそんな話ではありません。お互いがお互いを理解し、お互いの良さを認め合い、お互いの文化を学ぶ。

第5回目の「東九条春まつり」は、その大切なことが当たり前にならなく楽しく始まったお祭りでした。皆さん、ご協力ありがとうございました。

（第5回東九条春まつり実行委員長 矢吹文敏）

第 5 回東九条春まつりコメント&写真集!!

多文化交流ステージ / Multicultural Stage

東九条春まつり・いきいき ふれあいの輪っ!!

フィットネスクラブのストレッチで幕を上げ、高齢者施設（4施設）のご利用者の方、及び、職員の方が、それぞれの施設で一生懸命練習した出し物を披露しました。どの施設のご利用者様も笑顔で、日頃の成果を子供達の力を借りながら楽しんで居られる姿が印象的でした。陶化デイサービスの方言ラジオ体操、エルファデイサービスの音楽に合わせた運動、故郷の家・京都のフラダンス、東九条のぞみの園の鳴子体操と、会場がひとつになり、知らぬ間に会場に来られた皆さんも一緒になって参加されました。皆さんとても元気！逆に力をもらった感じでした。

衣川比呂志（故郷の家・京都）



凌風学園吹奏楽部、ヴァイオリニストの薮野巨倫さん、西尾安梨沙さん、京都国際学園舞踊部、京都朝鮮初級学校カヤグム部、テルサフィットネスクラブのみなさまにご出演いただきました。すばらしいステージをありがとうございました!!

実行委員会一同

初めての春まつり、初めての司会で緊張しましたが、とても楽しかったです。みんなが明るくて楽しい人ばかりだったので、初めてながらも輪に入れてもらえたような気がして嬉しかったです!

宮崎裕子（日本語司会）



今回の春まつりで英語で司会をさせてもらいました。初めてのことで緊張しましたが、普段、あまり交流のない高齢者の方々、障がい者の方々、子どもたち、異文化をもった方々と触れ合うことができ、とてもいい経験ができたと思います。

藤原奈央（英語司会）

出店 / Eat, Drink and Shops



第5回「春まつり」報告 ～出店から見た展示・ステージ～

京都・東九条CANフォーラムの出店「すじ焼き」も5回目の春まつり参加となった。初回から参加して思うのは、春まつりの内容が年々豊富となり華やかさを増しているという事である。例えば展示コーナーは、メインの「世界のおやつ」をはじめ展示の工夫が数多くの参加者の興味を引いているし、展示物自体が個々人のヒストリーを語っている。ステージを見ると、高齢者から子供迄広い年齢層が楽しんでいる事や他地域からの参加者が増えている事も実感される。映像コーナーでの幕間のトークが小会場では勿体ない内容だとの声が聞かれたが、これらはまつりが多くの人々に受け入れられている事を示しているのではないだろうか。今後も手作りの春まつりに参加しながら、多くの人々と繋がっていきたいと考えている。

(京都・東九条CANフォーラム)



体験コーナー / Experience Corner

車いす体験コーナー

踏切や歩道の段差など街中にあるバリアを再現したコースに、途切れることなく人が来てくれました。

交代で車いすを押す側と押される側になってもらうと、押される時の怖さや押す時の難しさをうまく体験できたと思います。

春祭りのボランティアの方が 3 人、サポーターとして手伝ってくれましたが、とても上手にサポートしてくれて参加した人はみんな笑顔で体験されていました。

宇田隆（日本自立生活センター/JCIL）



応急手当体験・的あてゲーム

資源回収・竹とんぼ工作



骨密度測定・福祉介護相談

南区地域包括支援センターでは、今年も骨密度測定と福祉・介護相談会を開催させて頂きました。昨年よりも多くの方が立ち寄り、骨密度の測定を受けて下さいました。測定をされた皆さんは、実際のご年齢よりも良い測定結果に胸を撫で下ろしたり、歓喜の声を上げて喜んでおられました。ご高齢の方だけでなく様々な年齢層の方に私たち南区地域包括支援センターのことをアピールする良い機会となりました。ありがとうございました。山森忠志（南区地域包括支援センター）

CD こま工作

教員グループは毎年「手作り工作を担当し、今年は「CDゴマ」と「ペットボトル水族館」を制作しました。開始と同時に多くの子どもたちが参加して大賑わい。途中に材料がきれて店じまいし、嬉しい悲鳴をあげました。来年はもっと沢山用意しようと思います。

（教員グループ）

文化祭・作品展 / Exhibition

世界の祝日とおやつを知ろう!!

私たちの日常には、親兄弟姉妹から受け取った文化がある。

私たちの地域や職場などの空間には、当たり前と思っている文化がある。

東九条という私たちの空間にも、世界につながる人々が住んでいる。

東九条に関わる国々の人々の小さな文化を知り、大きな文化を想像する。

それぞれの人々の暮らしには、国の喜びがあり、身体に溶け込んだ食べ物がある。

このささやかな文化を知りあい、感じ合い、溶け合うことこそ共に生きる社会。

この春まつりの小さな空間が、やがて大きな世界を創る。

それぞれの文化を感じ合い、楽しもう。

(第 5 回東九条春まつり実行委員長 矢吹文敏)



映像の部屋の報告

4月から障害者差別解消法がはじまりました。それを受けて、街中で出会う差別事例の寸劇映像、アスペルガーの社員が働きやすい職場を紹介する映像を見て、当事者に解説してもらいました。話していただいたのは、J C I Lの金順喜さんと、エルファ共同作業所の西澤慶泰さんです。ご自分や仲間が受けた差別体験、ご自分の障がい特性を語っていただき、どんなときに差別を感じているか、安定的に仕事をつづける自分なりの工夫を真っ直ぐに話されました。「障がい者だから」と決め付けて当事者の尊厳を傷つけていないか、法律だけでなく社会の理解を高めないと差別はなくなる、という話がなされました。

さとう大 (京都コリアン生活センターエルファ)

たくさんのスタッフ&ボランティアさんが参加してくださいました!!

＜車いす体験コーナー担当＞

自分が車いすに乗って押してもらったのは初めての経験でした。普段の生活では全く何も感じないほどの段差でも車いすにとっては大変なこともわかりましたし、全てをまかせて乗っている人はけっこう不安を感じるものだと思います。
カズ（京都 DARC）

＜ステージ会場担当＞

今までステージでの案内とか声かけをやったことがなくて、めっちゃくちゃ不安やったんですけど、時間が経つにつれて楽しかったです。昼からもカレーとかからあげや、いろいろとまわれてすごく楽しかったです。11 月にも秋まつり（希望の家主催）があるみたいなので、ぜひぜひ参加させていただきたいと思います。すばらしい経験をさせてもらってありがとうございます。

ラブリーななせまる（アステップむろまち）

＜警備・南入口担当＞

先日、NA の会場でお世話になっている東九条の「希望の家」という会館の主催する春祭りにボランティアとして参加しました。僕は、南入口の整理を担当しました。来る人来る人に当日のスケジュール表と靴入れの袋を渡して又、車椅子の方も多数参加していましたので車椅子の通れる様にスペースを空けたりと忙しかったですが、充実した時間を過ごせました。来年も又ボランティアとして参加したいと思っています。

イチゾウ（NA 響グループ）

＜世界のおかし販売担当＞初めて参加しました。私は室内の手作りのお菓子の販売をさせて頂き、いろいろな国の食べ物の作り方等を聞きながら、楽しい時間を過ごさせて頂きました。隣でインドネシアの方と一緒に販売をしていて異文化のふれあいもあり、又、変わったおかしも知り、お互い買って頂いたりするとハイタッチして楽しかったです。いろいろな国の方や健常者だけではなく、みんな一緒に参加できる春まつりにふれられたことに感謝しました。ありがとうございます。

エス（ギャマノン京都はんなり）

＜震災支援商品販売担当＞

韓国のおどりや、フィリピンの方のギター演奏などもあり、国際ファミリーデーのようにいろいろな方々とふれあいが出来た、楽しい春まつりだったと思います。

池田芳子（のぞみの園ボランティア会）

＜焼きそば担当＞

DARC から NA という自助グループに毎週通っていて、その会場で春まつりがあるという事でボランティアとして参加しました。当日、名札をもらって焼きそば担当なのでブースに行き、初めて会う人達と共同で焼きそばを作りました。隣のブースで韓国チャプチュを売るお姉さんとも仲良くなりました。焼きそばは全て完売しました（*^_^*）祭りはずごく賑わってて楽しくて、又参加させてもらいたいです。

エイサク（京都 DARC）

＜ごみの分別担当＞

ボランティアに参加するのは今回が初めてなのでドキドキしながら当日をむかえました。私が担当させていただいたのは、ゴミの分別とテーブルふきで、上手にお客様の対応ができるのか不安に思っていたんですが、皆様が優しく声をかけてくださったので、楽しくすごせました。出し物や食べ物も素晴らしいので、今回参加させてもらって本当に良かったです!!

ポチ（アステップむろまち）

＜ステージ会場担当＞

当日は楽しいひと時をありがとうございました。あまり役に立てたかはわかりませんが、お祭りの仲間（スタッフ）の一人として頑張ってお手伝いさせていただきました。また、ひとりの参加者としても、ステージや各国の料理など、普段なかなか体験することのない事を体験させていただき、非常に楽しかったです。あらためて今回は貴重な体験（1 日）を過ごさせていただき、本当にありがとうございました。

T（アステップむろまち）

＜世界のおかし販売担当＞

他国の方と話せたり、にぎやかで、とても楽しかったです。ありがとうございます。

U（ギャマノン京都はんなり）



2016 年度第 1 回 SYOKU I KU 「子どもの食事と栄養」



今年度の料理教室は、SYOKU I KUと題して、日本で暮らす外国人のお母さん向けに、子どもたちの食事と栄養について学んでいこうと思っています。

第 1 回目は、5 月 14 日（土）の午前中に行いました。初回ということもあって、ネットワークサロンに集うフィリピン人の女性たち 6 名が参加されました。京都市の食育ボランティアさんにご協力頂いて、食べ物にはどんな栄養があるのか、どれをどれだけ食べればいいのか、お菓子・嗜好品飲料のお話などを伺い、最後に簡単なおやつを作りました。

まず、食べ物カードをグループ（主食・副菜・主菜・牛乳と乳製品・果物）に分けて、その中からトレーに朝食分、昼食分、夕食分を選びました。みんなで、相談しながらするのは、とっても楽しい作業でしたが、やや主食のご飯やパンが少なく、主菜のお肉や魚が多くなっていました。意外とお肉やお魚は食べすぎているのかもしれないこと、全体的に量が多かったことにも反省されていました。

嗜好品飲料のコーラや、乳酸菌飲料などの飲みすぎは体に悪いとわかってはいましたが、砂糖の量を実際に見て実感されていましたし、野菜ジュースにも砂糖が入っているのにも驚かれていました。



「日本ではお客さんにお茶を出しますが、フィリピンではコーラを出します。」と聞いて今度は、私が驚きました。また、「暑いフィリピンでは飲んでもすぐに汗になり出てしまうけど、日本では汗をかかないから。」とも言われ、飲むもの食べるものを変えていかなければいけないのかもしれない、と思いました。



最後に白玉団子を作って、黒蜜やきな粉（砂糖と塩を少し加えて）でいただきました。きな粉は初めての方もおられましたが、おいしいと言って頂きました。白玉は、フィリピンにもあるそうですが、日本の方が、舌触りがとっても良いと感激されていました。

今回は子育て中のお母さんがお一人しか来られなかったのですが、子どもの食事というより、大人の食事に焦点が合ってしまいましたが、バランス良く食べて、健康に暮らすことができるように、SYOKU I KUを通じてサポートしていきたいと思いました。

村田牧子（京都市地域・多文化交流ネットワークサロン）



『東九条の語り部たちⅡ ―11 人の聞き取り報告―』 合評会の報告



2016 年 3 月 18 日に、発行したばかりの『東九条の語り部たちⅡ』についての合評会を行いました。編集にかかわったもの以外に数名の方が参加するという小規模な会だったため、参加者みなさんの意見を聞くことができる貴重な時間となりました。

第一部の聞き取りが、「聞き取りを早くしないとお話が聞けなくなる！」という危機感のなかで実施し、在日一世中心であったのに対して、今回は在日二世まで含めて「東九条」のなかで長いこと暮らしてきた方にお話を聞く方向で作業を進めました。その結果、東九条での生活と仕事、子ども時代の教育の様子などを明らかにできたかなと思います。

合評会では、オブザーバー参加の伊藤が報告書をあえて分析的に報告させていただきました。すなわち、個々人の人生を語っていただいているものを「仕事」「生活や差別」「教育の様子」などに分類して、11 人の語り手の共通性とそれぞれの特徴を出すことをしてみました。すると、「在日の生活」「東九条の住民」とひとくくりでイメージしてしまうものとは違う「仕事の多様性」や階層の差、教育への思いの違いなどが明らかになった報告会でした。報告をしながら、次の聞き取り作業は何をしたらいいのかという議論をしたいと思っていましたが、報告を長々としてしまったため、今後の方針については議論できずに終わってしまい、報告者としては申し訳なく思っています。

『東九条の語り部たちⅡ』は、地域コミュニティの現実を知るという意味で、私に新しい発見をさせてくれました。合評会は終わりましたが、多くのみなさんに読んでいただき、発見や感想やご批判をもらいたいと思っています。また、教育に関わる者としては、在日 2 世が抱いた「出自を隠す思い」が新渡日の子どもの現在の現在と重なり、何が変わって何が変わっていないのかを考えさせられました。歴史を明らかにしながら東九条のまちづくりを考える材料としても、活用されることを期待しています。

(伊藤悦子 京都教育大学教員)



□ 所在地: 〒601-8006 京都市南区東九条東岩本町 31 (京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内)

□ TEL: 075-671-0108 □ FAX: 075-691-7471 □ E-Mail: salon_kyoto@ck9.so-net.ne.jp

□ 開館時間: 9 時～17 時 □ WEB サイト: <http://k-tabunka.com>

□ JR 京都駅・京阪東福寺駅・市営地下鉄九条駅より徒歩 15 分

京都市バス 42・202・207・208 系統 九条河原町より徒歩 10 分／84 系統 河原町八条より徒歩 5 分